

Noto PLUS

12

広報のと
第106号

平成25年12月1日発行

発行・能登町 ■編集・広報情報推進課
〒927-0492 石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字1-9-7番地1

TEL: 0768-62-11000
能登町URL: <http://www.town.noto.lg.jp>
Eメール: info@town.noto.lg.jp



「新商品開発中！」
能登高校地域創造科が里山里海クラッカーを製作。
能登高商店などで販売されます。(詳細は18頁)



For all the local people NOTO FIELD NOTE

illustrated by a.yamazaki

協力：瀬戸久雄さん

Page 12

DATE: 2013.11.22
RESUME: 合鹿碗

「合鹿で発生し、自らのために自らの手によって作り出した漆の碗」(荒川浩和氏)

「合鹿碗とは、能登町の登録商標、木地師の器」

「合鹿碗」の歴史

日常必要最少限、実用に耐える堅牢な手近な材、シンプルな工法

基本は2コセリの入れ子式

飯碗、汁碗

特色

経過

① 真創期 17世紀
② 前期
③ 過渡期
④ 発展期 (2016)
⑤ 後創期 明治
⑥ 末期 1930
⑦ 消滅

「合鹿碗」とは、木地師の器

能登町の登録商標

中世初期以来の伝統的技法

分業化以前の古い形態 (四柳嘉章氏)

素朴で包みこむような温かさ

炭粉洗下地

1期 輪創期 原初形

炭粉洗下地

大振りやかんという高い高台

木地師が木から塗りオで貫通させ、横木取りし、はり痕が残る

矢印は土間、ムシロ、野外で使用しにからむ。

手斧(ちん)のはつて成形する。

交互に引くと軸が往復回転する。

右回り左回り 共同作業

カンで挽いて成形

ろくろ(福正寺に現存)

① 柿渋を塗る (防止)

② 布着せ

③ 下炭粉を洗

④ 研ぐ

⑤ 漆を塗る

大宮静時氏による復元方法

輪島の角備三郎氏は合鹿碗を範とし「生活で使われる漆碗」をつくった。

刷毛が残っていたり漆の縮みがあったりしても使えば許される。そういう時にして社会から必然的に生れてきた魅力がある。

合鹿碗の感性に訴える品格。それは夫婦の気遣い、献身的な生活そのものの所作ゆえであろう。(大西勲氏)

最大径は15cm

6期 極盛期 品質が向上し大型化、多様化した。産地となり、産例も多。

3期 発展期 半透明漆を使用している

3期 挽き主体に

「合鹿碗」

みなさんの身の回りにはたくさんの「素材」があり、その中でも暮らしている人がいいと思ったものを「地域資源」、さらに目利きやヨソ者でさえいいと思うようなものを「地域の宝」とよびます。「宝」をお伝えしてきた筆をひとまず置き、ここから「宝磨き」ボタンをみなさんにお渡しします。2年間の応援、ありがとうございました。(山崎昭宏)

【絵・文】 山崎昭宏 <http://blog.livedoor.jp/yurariburari/>
※無断転載を禁じます。

「広報のと」12月号の印刷費は一部当たり27円です。

